



大分合同新聞  
ワークシート

大分合同新聞  
2023年  
8月8日(火)  
朝刊 18面

## 国見町の子どもたちが整備発案



ステージで完成した公園について説明する子どもたち＝国東市国見町



子どもたちが力を合わせて完成させた「もやし公園」

# 「もやし公園」お披露目

【国東】国東市国見町岐部に、町内の子どもたちが造った「もやし公園」が完成した。楽しく住みやすい地域にしようと、公園整備を発案し、大人と一緒に滑り台などの遊具を設置した。現地で5日、お披露目を兼ねた夏祭りが開かれ、地域住民らでにぎわった。

公園は広さ約70平方メートル。モヤシのデザインをあしらった平均台、海で集めた石を敷き詰めて足つぼを

刺激できる遊具、国東産木材を使ったツリーハウス、ステージを兼ねたあずまやなどがある。子どもたちは地元の大工有志が造った滑り台に防腐剤を塗るなど、

## 地元住民ら夏祭り満喫

遊具造りに関わった。中心になった子どもたちは、町内で清掃活動やイベント出店など地域貢献に取り組む「もやし会」のメンバー。名称に「地域に根を張り、大人の愛情を受けながらすくすく成長する」との思いを込めた会には現在、小中高生13人が所属している。

(佐藤英司)

公園整備のきっかけは2020年。当時の中学生らが地域に目立つ空き家の調査を1年がかりで実施した際、「空き家が増えないように、子育て世代や移住者らのために公園を造ったらどうか」と思い付いた。

地元住民らでつくる「だいず会」（武井啓江会長）がサポート。用地は岐部にある国見ふるさと展示館そばの市有地を借り、整備資金はクラウドファンディングで約250万円を集めた。

夏祭りには子ども連れの家族ら地域住民が来場。遊具を使って遊んだり、住民同士で交流したり、楽しい時間を過ごした。

リーダーの一人、武井そらさん(15)は岐部、芸術緑丘高1年。11は「毎年、公園で夏祭りとおロウインパティーを開きたい」と笑顔。母親の武井会長は「過疎高齢化が進み、地域に住む大人の力は限界にきている。これからは子どもたちが活性化の主役」と話し、活動を通しての成長を期待した。

- 〔問①〕 国見町内の子どもたちが造った公園の名前は何ですか。 ( )
- 〔問②〕 2020年に当時の中学生らが何の調査を ( )  
1年がかりで実施しましたか。
- 〔問③〕 公園の整備資金はクラウドファンディングで ( ) 円 )  
いくら集まりましたか。
- 〔問④〕 どのような公園を造ればあなたの住む地域がもっと元気になるとおもいますか。